

# 琉球大学学術リポジトリ

## 1960年1月の安保条約改定時の朝鮮半島有事の際の 戦闘作戦行動に関する「密約」に係る調査関連文書 No.5

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 朝鮮半島有事, ロジャース国務長官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43886">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43886</a>

201

201

極秘  
外務大臣  
下田  
冷元  
寺  
注  
三  
米  
大  
総

外務大臣訪米報告

44.9.15 米B巻

1 今回の訪米は11月の総理訪米に先立  
最後の大臣とヴェトナムの協会の機会であり  
外務大臣と(は)余すところ2ヶ月に迫った総理訪米に前  
仲尾返還問題に決着をつけるためには  
最大限に仲尾の諸君を説き及ぼさ  
要ありとの立場で國務長官との協会の  
腹んが為である。

大臣訪米に先立ち東京における事務シ  
ルの協会の結果については國務長官も相  
検討してはと思はれるが、大臣滞在中  
務長官とも改めて詳細研究を進め

月までの待望の郵船も念頭に置いて双方と  
の協力を極力具現的に固めようとの気持を  
示したことは今後の交渉促進に極めて有  
益であった。

2 以上の雰囲気で行われた2回の大臣國務  
長官の会談の結果、主たる問題点についての進  
展は凡そ冷のとおり。

(1) ヴェトナム

今回の会談を通じ米側が最も懸念して  
いたのはヴェトナムであった。即ち返還の  
時期到来するもヴェトナム戦争の終結に  
ない協会の問題については、これを曖昧な形

てなく共同声明自体に記すことかできな  
たら爾後米国内の取極めは到底望むべ  
くもなし、といふ事情を強調し、従つて我方が

共同声明の中におのづかき措意することになり

号に記すことにより、米側としては一方向の取極めが整

つたと云ふことになつた次第である。共同声

明の字句にこの二語若干の問題あるべし

今回の会議に於て双方実價約に合意を

見せよは、大まな前進であつた。

(12) 韓国、台湾に於ける攻撃

韓国、或は台湾に於て武力攻撃があつ

た場合に米軍攻撃の問題については、東京に

前43日米国の国務省を通じて、既に合意に

達してゐたが、今回の会議に於て閣議長も

共同声明に於て両者を全く同列に扱ふ

ことの不適当なる所を充分認識し、共同声

明及び我方一方の結束の表現に於ては若

干の修正を強する所となつた。但し本件に

關しては、事前協議の時間的余裕もなきような

事態変更の協会の問題に付、米国内の調整未

了の如くである。

(11) 核兵器

本件に關しては、閣議長は、従つての

問題が解決の上で、特に本件に付大體領

と寫と協成する要あり、米國としては極めて  
重要なる問題であるので、今日の段階では、  
何とも申上げ難しと繰返すのみであつた。  
察するに、國務省としては今般に於て國防事  
とも此を讀めたる上、返還時の核撤去に付  
大統領の決断を仰ぐ事であると思はれりか、  
今日のところは遺憾なく断言的な判断を以て  
難く、特にいかなる返還後の有事措置の扱方  
については我方としても考へて置く必要ありと認  
めらる。

3. 以上を通報するに、國務省としては長官以下  
11月の總理訪米の機会に互々の懸念を解決して

日米両国を以て安固なる基礎の上で發展せ  
らるべきと云ふ確乎たる考方に基づいて、  
一刻に努力  
(このことには譲りない)と決めらる。しかし乍ら  
國防省との最終的な詰めはこれからであら  
り、その進捗が容易でないことは想像するに難  
くない。今後總理訪米までの間は米国内に於て  
核の問題を含め總ての点に付完全な準備を  
了すべく努力されなければならぬか、大統  
領の決断は、大統領には沖繩問題のみならず  
日米兩國の關係、アジア或は世界における  
西國の協力と云ふ意の分置における心配を  
必要とし、今秋の日米会談はその意味を極めて

重宝七士のとらさう。